Namaste

お釈迦様のほほえみ

時宗布教伝道研究所研究員　小田　義宗

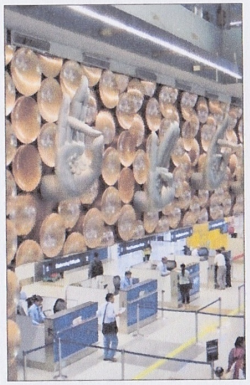
時宗布教伝道研究所研究員小田義宗

この時宗季刊誌に投稿させていただくようになってから、気がつくとインド研修から丸5年以上が経過していました。いよいよ今回が最後になりますが、これまで楽しみにしていただいた皆様に、まずは感謝申し上げたいと思います。また私のような者にお釈迦様の聖地であるインド研修記を執筆させていただいた諸大徳の皆様、そしてなによりも私をインドに導いていただいた群馬県桐生市青蓮寺の本間住職には感謝の気持ちでいっぱいです。残念ながら私がお釈迦様の聖地を自分の目で見て、耳で聞いて、体で感じ取ったことは、時の流れと共に徐々に剥ぎ取られてはいきますが、これまでの原稿を書くにあたり再度資料を引っ張り出し、写真を眺めることでまた新たな発見ができたことも多々ありました。このようにインドの仏跡を巡り、本当にお釈迦様がこの世に存在したことを

実感し、そのことを深く考察できた経験は何年経っても消えることはないでしょう。

仏教徒の皆さん、インドという国には行かねば分からないことがたくさんあります。そして今から1500年程前、日本に仏教が伝来してから後、我々のご先祖様がなぜこの外来宗教を受け入れ、そして元々あった神道と融合していくことができたのか、インドに行けば必ず理解できると思います。これからもチャンスがあればまた何度でも訪れてみたい、そして皆さんにもお勧めしたい場所、それがインドという国でした。そしてどのような宗教であっても、聖地巡礼とは、本来そういうものだと思います。

インド最後の町となったデリーのホテルから町を眺めていると、その首都は本当に近代的な大都市であることに気づかされます。そして同行していただいたガイドさんが幾度となく言ってましたが、訪れるたびにこの町は常に変化しているそうです。私が旅してからもう5年以上の月日が流れましたから、デリーやその他の町もすでに様々なことが変わっているのでしょう。

このように、これからのインドは大いに発展し、その未来は私たち日本人が想像しているよりもずっと壮大なものであると感じます。そして同じアジアの中で「仏教」というキーワードで繋がっている日本とインドは、これからもっとお互いのことを理解し合うことが必要です。でもそれは不可能なことではなく、他と共存し合える宗教を起源とする国同士なのですからできないはずがありません。そして同じように仏教がインドから伝播していった道中にある国々や地域でも、その開祖であるお釈迦様の「共存の教え」が、今なお私たちを見守って下さっています。ですからその『ほほえみ』の下、それらに住む人々もさらに明るい未来に向かって共に歩み続けることができるはずです。そしていつの日か、この地球上の全ての生きとし生けるものが理解し合い、幸せになれることを願いながら、筆を置きたいと思います。

合掌